

キバネモリトンボ

Somatochlora graeseri aureola

エゾトンボ科



キバネモリトンボ

名前の由来

翅の根元が黄色い森トンボの意。森トンボは樹林のある池に生息しているためと思われる。「トンボ」については、東北地方でトンボのことを「ダンブリ」「ドンブ」などといい、「ドンバ」→「トンバウ」→「トンバ」→「トンボ」となったのでは、という説がある。また「飛ぶ棒」からだという説もあるが、「棒」が漢語であり、古代日本語としては不適切との指摘がある。漢字名：黄翅森蜻蛉

形態的特徴

体長51～57mm。全身金属光沢のある緑色で、翅の根元に黄色い部分がある。

類似種と見分け方：カラカネトンボ、コエゾトンボ、ホソミモリトンボ、エゾトンボ、タカネトンボ、ハネビロエゾ

生息環境・分布

平地から低山地の林に囲まれた池沼に生息している。

分布：日本特産亜種。国内分布は、新潟県、岩手県、青森県、北海道。北海道内では、全域に分布。

食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、魚の稚魚、オタマジャクシなどの水中の小動物。成虫になるとカやハエなどの昆虫類やクモ類を捕食する。

繁殖生態・寿命

産卵はメスが単独でうす暗い池岸の浅い水域で打水産卵をする。成虫は6月中旬から9月中旬に見られる。

寿命：幼虫期間約2年、成虫期間1～2ヶ月。

配慮事項

他のトンボ類と同様に、池や沼の中に水草が生えていることが大事。羽化するとき水草に登って羽化する。池や沼の周辺に樹木や草原があることも大事。羽化後の成虫の採

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期												
成虫期												

参考文献

「蝦夷の蜻蛉」広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993
「北海道のトンボ」二橋愛次郎 エコネットワーク 2002
「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」石田昇三・石田勝義・杉村光俊 東海大学出版会 1988
「日本産トンボ大図鑑」浜田康・井上清 講談社 1985

トンボ。

エゾトンボの仲間は外見はほとんど同じだが、翅の根元が黄色いのはこの種類だけであることで区別できる。

十勝地方では、平地から低山地の周りが林に囲まれた池沼に生息している。帯広市、幕別町、新得町、豊頃町、浦幌町、大樹町などで確認されている。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫になるとムシヒキアブなどの肉食性昆虫やクモ類、カエル類、大型のトンボ類、鳥類などに捕食される。

興味深い話

■エゾトンボ類はひとつの池に生息する個体数が少ない。周りが樹木で囲まれた池や、樹林の中の湿地などで見ることができ。

■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンクカチュイ」という。

餌場と休息場となる。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 花

(外来種) 花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ